



今月の題字  
春風亭かけ橋さん

(神奈川県横浜市出身)

落語協会と落語芸術協会、そしてお客さんとの「かけ橋」になりたいという春風亭かけ橋さん。温かい人柄が菊華寄席の舞台からも伝わってきました。

虹の架橋

検索で、インターネットからでもご覧いただけます。

田楽座 ながめ芝居小屋公演

来る十二月八日(日)午後一時半から、ながめ余興場で、「田楽座ながめ公演」が開催されます。今年創立六十年を迎えた田楽座のホームページには「みなさまに支えられ、お蔭様で六十周年。感謝カンレキあめあられ」と書かれています。田楽座のモットーは「祭り芸能で世界をもっと元気に！」。信州伊那で誕生した田楽座は、日本各地の祭りで受け継がれてきた太鼓・唄・踊り・獅子舞などの民俗芸能をもとに創作舞台を繰り広げる伝統ある芸能集団です。



田楽座ながめ余興場公演  
☆12月8日(日)  
☆13時半開演(13時開場)  
☆前売券  
一般3,500円 当日4,000円  
一般ペア6,000円  
U25(小学生から) 1,800円  
各種前売券は足利屋・アスクでも取り扱っています。

田楽座座長の中山洋介さんは「ステージの演者だけが田楽座なのではなく、それをみて笑顔になる観客も含めた空間、人が集い繋がり合っている場、それこそが田楽座だと思います」と言っています。中心メンバーの相楽逸枝さんは大間々一丁目生まれ育った笑顔美人。熱心な逸ちゃんファンも多く、凱旋公演で盛り上がりそうです。今回の公演では、特別ゲストとして、上州八木節保存会が出演。今年で七十年目を迎える八木節保存会のステージも楽しみみです。



世界一小さな  
足利屋  
トイレ美術館

今月の絵《352》

筑井孝子さん『群馬山図』



今年も足利屋とさくらもーる・アスクでは、十二月一日から水彩画家・筑井孝子さんのカレンダーを希望者に配布させていただきます。今年のカレンダーの年間テーマは『ふるさと群馬山図』。赤城、榛名、妙義の上毛三山をはじめ、尾瀬至仏山、岩櫃山、日光白根山、浅間山などの四季折々の風景が描かれています。2025年のカレンダーを見ていると、群馬に生まれ育った幸せを感じます。来年もこのカレンダーと共に一年を過ごしたいと思えます。足利屋の店内では、筑井孝子さんの水彩画の原画を何点も展示させていただきます。

小耳にはさんだ  
いい話  
(文責・靖)  
《352》



努力には無駄がない

愛媛県久万高原町に住む小倉くめさんとは二十年來のお付き合いになります。くめさんは『秘めたるま』という季刊誌の発行を続けて四十一年。先日届いた秋冬号が第百六十三号でした。そして、南海放送の『ラジオエッセイ・くめさんの空』も三十年を超える長寿番組です。『秘めたるま』も『くめさんの空』も、人として明るく正しく生きるヒントが満載です。

くめさんは今年七十八歳。脊柱側弯症という障害をもって生まれてきたくめさんは今年七十八歳。脊柱側弯症という障害をもって生

まれ、いじめや辛い思いをしてきました。その経験から、全ての人間に平等が保証される社会を目指し、「難しいことをやさしく、やさしいことを深く、深いことをおもしろく」四国のお国言葉の久万弁で明るく語りかけてくれます。『秘めたるま』や『くめさんの空』でよく紹介されるのが、日本を美しくする会相談役の鍵山秀三郎さんの言葉や、ネパールで支援活動を行っているOKバジの紹介。相田みつをさんや星野富弘さんの詩なども、くめさんの温かい語り口で紹介されています。十一月十七日の放送では鍵山秀三郎さんの「努力には無駄がない」とい

う話をくめさんが朗読して心に沁みてきました。「私が努力には無駄がない」というと、九十九%の人が『そんな馬鹿な、世の中そんな甘くないよ』と言います。努力するよりも要領よく立ち回った方が、手を抜いてでも手っ取り早くやった方が勝ちだという人も少なくありません。ところが、努力には無駄はないというのは本当なのです。自分が期待した形になって戻ってこないから一見無駄のように感じますが、必ずそれは形を変えて戻ってくるのです。今の

世の中、点数至上主義や利益至上主義という物差しで見ようとして、何かをつかんだ方が勝ちだという風潮になっていくが、世の中をよくしていくには、目立たない小さなことに対する努力に目を向け、評価してあげるといふ視点が必要なのではないでしょうか。二〇二四年秋冬号の表紙には、「あなた良し、わたし良し、地球良し」の言葉が添えられています。『秘めたるま』は足利屋の休憩コーナーでも見られます。



靖ちゃん日記

令和六年十一月十五日(金)  
大間々駅のトイレ掃除の朝、まだ薄暗い駅に着くと人影が動いていた。「おはようございます」という明るい声で林さんだとわかった。林さんは十四年前、初めてトイレ掃除に参加して以来、大間々の実家に帰ってくる時は掃除に参加してくる。

文科省のエリートだが大間々の街おこしの若手のリーダーとして活躍している。掃除の後、林さんと大間々高校文化祭の地域探求発表会に来賓として出席した。生徒たちは地域の観光や商業などのテーマで学んだことや問題点を発表した。大間々高校の「丹上浦造り」の生徒たちは五年「高校生まちづくりコンテスト」で全国最高賞に輝いた。大高生たちの地元を愛する発表を聴いて嬉しくなった。夕方、大高生の男女が手をつないで歩いてきた。商店街が明るく見えたり。我々の世代が夫婦で平を歩かないで歩いていたら、老々介護と間違われそうだった。

菊人形瘦せても枯れても金太郎  
北関東最大級の規模を誇る「第六十七回関東菊花大会」では、ながめ公園を会場に約千鉢の菊が展示され、かぐや姫や金太郎、みどり市のキャラクターみどりモスやぐんまちゃん、わ鐵のわっしー等の菊人形が展示されていました。金太郎の菊人形は、箱根の山を背景に、黄色い小菊をまとい、相撲相手の熊を投げ飛ばす姿が再現されています。私たちが金太郎の菊人形を長年手がけてきた先代菊師の松崎福治さんは私の父と同じ名前です。職人気質の人でした。



第三百五十三号は令和七年一月一日(水)発行予定です。

靖ちゃんの似顔絵提供：ひさかさん